標準委員会　リスク専門部会　津波PRA分科会

第10回津波PRA分科会議事録

１．日　時　　2011年12月6日（火）　13:30～15:55

２．場　所　　（社）日本原子力技術協会　A会議室

３．出席者（敬称略）

（出席委員）山口主査（阪大）、桐本幹事（電中研）、倉本委員（NEL）、黒岩委員（MHI）、杉野委員（JNES）、西尾（藤本委員（JNES）の代理）、鈴木委員（原技協）、関沢（竹山委員（中電））の代理）、岩田（秋山委員（CTC）の代理）、成宮委員（関電）、松山委員（電中研）、美原委員（鹿島建設）、織田（守屋委員（日立 GE）の代理）、喜多委員（TEPSYS），安中委員候補(東電設計)（15 名）

（欠席委員）蛯沢副主査（JNES）、佐竹委員（東大）、中井委員（JAEA）、平野委員（東京都市大）、木下委員（保安院）（5名）

（常時参加者）廣川（TEPSYS）、坂田（GIS）、佐竹(原技協)（3名）

（傍聴者）小山（電発）（1名）

（敬称略）

４．配付資料

RK2SC 10-1	第 9 回津波 PRA 分科会議事録（案）
RK2SC 10-2	人事について
RK2SC 10-3	津波 PRA 実施基準　（公衆審査版）
RK2SC 10-4-1	引用図表転載許諾状況及び転載依頼文書（案）
RK2SC 10-5	津波 PRA 標準の改訂ならびに関連するタスクについて
RK2SC 10-6	分科会主要スケジュールについて r18 版

参考資料：

・参考 1　第 9 回津波 PRA 分科会議事メモ（案）
・参考 2　保全学誌　津波 PRA 標準　解説記事
・参考 3　委員推薦書

５．議事内容

議事に先立ち、開始時点で委員 19 名中 13 名が出席しており、分科会成立に必要な定足数（13 名以上）を満足している旨が報告された。

（１）議事録確認

前回議事録について、資料 RK2SC 10-1 に基づいて、桐本幹事から説明があった。議事録については、事前にメールで確認が行われていたので概ね了承されたが、下記 1 点を修正し、最終版とすることとなった。

・　3 頁の 8 行目。イベントツリー方をイベントツリー法との記載に修文

また、鈴木委員より以下の紹介があった。

・p.2（2）の 5 つ目の・にある断層モデルの種別は、標準案 p.18 の c）にあるように「矩形一様モデル」と「不均質モデル」とすることになった。

（２）人事について

委員について、資料 RK2SC 10-2 に基づいて、鈴木委員から説明があった。届け出のあった安中氏が、全員賛成で委員としてリスク専門部会に推薦されることとなった。

（３）標準案発行対応（引用図表の転載許諾状況、公衆審査コメント状況等）

標準案発行状況について、資料 RK2SC 10-3、RK2SC 10-6 に基づいて、桐本幹事から説明があった。

12/11　公衆審査終了　今のところコメントなし

12/12　リスク専門部会で公衆審査結果報告

12/14　第 47 回標準委員会で報告　その際プレスに連絡する。

12/19 の週　大きなコメントがあった場合、分科会で対応する。なければ年末年始のタイミングで発行手続きに入る。

転載許諾の対応は 12/16 までに実施する。

引用図表の転載許諾状況及び転載依頼文書（案）について、資料 RK2SC 10-4-1 に基づいて、桐本幹事から説明があった。許諾状況整理表の各項目をチェックし、必要なものは許諾を受けることとなった。許諾を受けるのは、下記の 5 箇所。

１．土木学会	附属書 G、解説図 4	松山委員
２．JNES	附属書 H	杉野委員
３．世界地震工学会	附属書 M	桐本委員
４．津波の辞典	解説図 2	桐本委員
５．気象庁	解説図 3	桐本委員

標準の本文の修正として、以下の指摘があった。

（桐本委員）

p.96　5 行目　図 H.13-4 を図 G.13-4 に修正

p.127　17 行目、18 行目　地震ハザードを津波ハザードに修正

（成宮委員）

p.89　図 G.12-2　年超過確率からフラクタルへ　を　年超過確率からフラクタルへの変換例　に修正

p.90　図 G12-4 は削除　これに伴い p.89　下から 3 行目　（図 G,12-4 参照）を削除

（4）津波 PRA 標準の今後の改訂方針について

津波 PRA 標準の改訂ならびに関連するタスクについて資料 RK2SC 10-5 に基づいて、山口主査から説明があった。添付資料 1 については、成宮委員から説明があった。

津波 PRA 分科会で次の標準の改訂版を作る際には、地震関係の機器、建物フラジリティの専門家に入ってもらい 1 年から 1 年半くらいかけて以下を議論してゆくことになった。

①結合ハザードの評価、②地震の影響を受けた時のフラジリティ評価、③洗掘、漂流物の取り扱い、④福島等の実績、知見を踏まえた評価の標準への反映、⑤実際の原子力発電所のウォークダウンでの調査結果を踏まえた洗掘などの評価、⑥地震 PSA 分科会に評価して欲しい項目のフィードバック、⑦システム評価におけるスクリーニング方法の充実、カップリングした時の評価方法。

（5）その他の今後の作業について

分科会の今後予定について、資料 RK2SC 10-6 に基づいて、桐本幹事から説明があった。英語版を出す予定であり、現時点のバージョンで英訳が終わっているものに対してレビューしコメントをすることとなった。英語版は 3 月中に発行する予定。

（6）その他

・参考資料 2 は、保全学会からの依頼で解説記事を作成したものであるとの紹介があり、内容についてレビュー依頼があった。
・標準完成後に講習会を行う予定であり、協力要請があった。
・H24 年 6 月にヘルシンキで開催される PSAM11 に津波 PRA の発表をシリーズで 5 件行う予定である。論文締め切りが 1 月であることが紹介された。
・原子力学会春の大会の標準委員会のセッションでも発表する予定であることが紹介された。

（7）今後の予定

第 11 回　1 月に開催予定、場所等は後日調整

以　　上